まちづくり懇談会議事録

日 時：平成 30 年 11 月 12 日（月） 13：56～15：57

場 所：北学田公民館

出席者：12 人

1. 開会
2. 町長挨拶
 - ※職員自己紹介
 - ※資料確認
3. 説明事項
 - (1) 栗山町第 6 次総合計画後期実施計画策定について（資料①・②）
 - ※質疑応答
4. 懇談
 - (1) 栗山町が直面する主な課題について（資料③）
 - ※自由討論・質疑応答
6. 閉会

《懇談会内容》

提言：栗山高校の存続に関して、卒業生の進路はどのような状況か。支援するのであれば、就職先・進学先の状況に応じた内容で検討を進める必要がある。

教育長：平成 29 年度の卒業生の進路の内訳は、大学進学者 20 人、専門学校進学者 21 人、就職者 29 人。既に各種資格取得や検定に対する支援を行っているが、今後、さらなる支援策が必要であり、皆さんからご意見をいただきながら検討を進めたい。

提言：北広島市でボールパークの話が進んでおり、人の流れが変わると推測する。栗山町からも 1 時間以内の位置にあり、今後、栗山町としてどのようにお考えか。近隣地域と一緒に人を呼び込むような何かができないか。また、苫小牧市では I R（統合型リゾート）誘致を進めているが、これに関しても栗山町を通過する時にでもお金を落としてもらえるようなお考えはないか。

町長：北広島市とはボールパークの件で話をしたことがあり、北広島市も近隣自治体と一緒に振興できるよう協議会組織などを立ち上げて検討したいとの話題もあった。ボールパークの従業員宿舎なども必要になってくると思うので、こちらからも働きかけながら積極的に関わっていきたい。苫小牧市の I R 誘致も同市や近隣地域の活性化が期待できる。（町民理解など）難しい分野ではあるが、本町の活性化にもつながるものであれば働きかけていきたい。

質疑：資料①の 13 ページに「御大師山や湯地・鳩山地区などの一体的な景観・観光振興構想策定」とあるが、道道三笠栗山線に関するものか。

町長：御大師山をはじめ湯地・鳩山地区は自然景観が素晴らしいことから、御大師山を中心としてこれらエリアが一体となった観光ゾーンとしての整備を考えている。現在、御大師山では展望デッキの整備を進めており、栗山町スキー場のリフト降り場付近にも小さな展望デッキ

を整備するほか、散策路の整備も進める計画となっている。鳩山地区では先日、鳩山由紀夫氏から地域のためにお手伝いしたいとの申し出があった。まずは構想づくりをしっかりとやりたい。

質疑：日赤の関係で、町立として進める方法、日赤を建て替える方法の2案の説明があったが、それ以外の方法はないのか。例えば、近隣自治体にも町立病院があるため広域化するなどの考えはどうか。

町長：その他に考えられる方法としては新たに医療法人を誘致するというものもある。広域化は、以前に協議を行った専門委員会からも広域連携による拠点総合病院に関する提言があったが、私としてもできるのであれば最適だと思うが、拠点をどこの自治体に置くのかが問題。各自治体でも総合病院は町の核となる施設であり、自分の町に置いておきたいと考えている。連携できる部分は積極的に進めていきたい。

質疑：日赤の関係で、医師不足との説明があったが、医師が集まらない裏事情があるのか。

福祉課：日赤病院には年間4,000万円を補助して医師確保に努めてもらっているが、主に北大から派遣で来てもらっている（定住にはつながっていない）。医局（派閥）の問題もあり、場合によっては派遣が難しくなることも考えられるが、現時点では北大とは良好な関係性であり、11診療科を維持できている状態にある。

意見：日赤の建て替えは、現在ある場所で考えているのか？駅前など住民が通い場所であると良い。

町長：現在の場所、別の場所、それぞれ検討中。しかし、別の場所となれば許可などが必要となる。

福祉課：現在の病院施設の裏手に建て替えできる用地はある。今後の人口の見通し、日赤としての経営努力なども踏まえ、まずは諸条件に見合う規模を導き出す必要がある。いろいろな引き出し（案）を持っておきつつ、スピード感も必要。町民皆さんの意見もいただきながら早急に進めたい。

町長：場所の問題は重要。駅前のほうが住民の利便性も良いと考える。現在、日赤の病床数は136床だが、稼働率から90床までに抑えるなど最小限の規模で考えたい。その一方で、将来的に広域化の話が進んで建て増しするようなパターンも考えられるので、いくつかの案を整理していきたい。

質疑：病院の経営は儲からないということか。

福祉課：全国的には7割5分は赤字経営。残りの2割5分の黒字経営は、主に本州の大都市圏や広域連携が進んでいる地域。広域連携も市町村合併の話が進まないといけない。

意見：町長の「栗山町スキー場はあったほうが良い施設」というご説明のとおり、私も「無くてはならない施設」だと考える。お金がかかってでも存続してもらいたい。45年間も運営してきた、今年になっていきなり中止ということだが、そのような行政のやり方は理解できない。昨年までリフトが稼働していて、今年になってなぜダメになったのか。今まで調査してこなかったのはなぜか。栗山町スキー場は他地域からも受講生が来ていて、利用料も安く評判が良い。若い町長になって、人脈も広く、アイデアマンであると聞いた。あらゆる方法を考えてほしい。東京栗山会の方々をはじめ、都会にはお金持ちがいる。寄附などでリフトのお金を集めるなど良案を期待している。

町長：栗山町スキー場の存続・廃止は、十数年前から議論を重ねており、リフトが使用できなく

なった時点で中止にするという方向付けがなされていた。これまでも毎年のように維持補修しながら運営してきたが、どうしようもできない状況となり今年の中止を決定した。ギリギリの状態で作ってきた。先ほどご説明した「あったほうが良い施設」というのは「無くても支障がない施設」という意味である。しかし、スキー場には思い入れのある方も多く、簡単にやめるといふことにはしたくない。皆さんと議論を尽くしたうえで判断したい。

意見：リフトはないとダメなのか。リフトは使用せずとも、自らの足で登りながら、基本的な技術指導など教え方で工夫できる部分もある。リフトだけで存続を判断するのではなく、段階的にやっていっても良いのでは。

町長：100か0かの議論ではなく、皆さんから意見をいただきながら、その中間に見えてくる判断もあると思う。

意見：生ごみ袋が破れやすく使いづらい（昨日も破れた）。インターネットでも同様の悩みに関する書き込みを見た。改良できないものか。

建設課：以前から同様のご意見が出ていたため、今年6月からは土壌に溶けやすい成分を抑えて破れづらく改良したごみ袋を販売している。以降は苦情も出ていないので、ご家庭でもご確認願いたい。

提言：栗山ダムからの河川（ポンウエンベツ川）に生えている樹木の伐採をお願いしたい。台風による倒木の処理を少しやってくれてはいたが、まだ残っているので続きの作業をお願いしたい。

建設課：長沼土木現業所へ要請する。